

1000年先の未来へ。  
美しい里、豊かな海

かがわ里海大学 2022

スタートアップ講座



## 里海ガイドと行く 海辺のおでかけマップ ウォーキングツアー 開催しました！

- 日 時：2022年12月3日（土）13:00～16:00
- 会 場：坂出市沙弥島、万葉会館
- 講 師：かがわ里海ガイド（谷 光承 氏、岡 加依子 氏）

### ◆実施内容

自然の中を楽しみながら歩き、里海や環境について体験型で学ぶウォーキングツアーを開催しました。親子15人の受講者が、里海や沙弥島に関するクイズやスタンプラリー、ビンゴを楽しみながら沙弥島を巡りました。



オリエンテーション



元気をチェックしてスタート



沙弥島を巡るルート

はじめに、オリエンテーションの中で受講者に「沙弥島を訪れたことがあるか？」と質問するとほとんどの方が、初めて訪れたとのことでした。会場まで車で来たのに何で「島」と名前が付くのかを不思議がる子どもたちもいたようです。そこで、埋め立てにより沙弥島が陸続きとなる前の様子を写真で見せ、当時は島であったことを確認し、昔島だった場所をぐるっと1周巡ることを伝えてウォーキングをスタートしました。



金刀比羅神社



石の穴の謎を知る



元気よくクイズにチャレンジ



スタンプラリーの様子



海苔工場周辺の見学



えなが石

スタンプラリーは、島に関する事や里海に関するクイズにチャレンジしてもらいその内容を理解してもらえたり、ミッションにチャレンジ（きれいな風景の所で写真を撮影するなど）して達成したりするとスタンプを押してくれる内容になっています。

クイズでは「石に一直線に並んだ穴が空いているのは何のため？」「言い伝えによると、えなが石を触ると身体のどこが痛くなる？」などの沙弥島に関する問題を3択方式で答えるようになっています。

また、ナカダ浜や近くの磯では、生き物&漂着物を探すビンゴゲームが行われました。ビンゴのマスの中には、「ゴツゴツ」「グルグル」などが書かれてあり、これらの表現に合った生き物や漂着物を、子どもたちは真剣になって探していました。見慣れない磯の生き物にはドキドキしながら触っている様子もみられました。

ウバメガシが茂りトンネルのようにになっている森では、ガイドからこのウバメガシは温暖・乾燥である瀬戸内海地域の急傾斜地で、保水力が低いことや潮風が当たるなどの大変厳しい場所に育つ樹木であり、備長炭の材料になることの説明がありました。

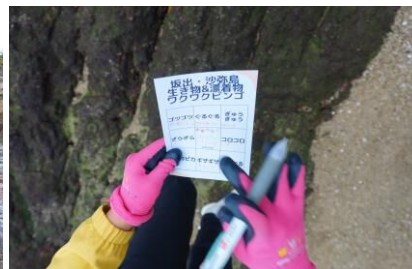
ルートの最後は、沙弥島海岸でごみ拾いとビーチコーミングで貝殻などのお宝を拾い集めて、万葉会館まで戻り活動を終了しました。非常に短いルートではありますが、途中にいくつかのアクティビティを盛り込むことで約2時間をワイワイ楽しみながら巡っているように感じました。



ナカダ浜を歩く



ビンゴをしながら磯の生き物観察



ビンゴにチャレンジ



ウバメガシの森を歩く



海岸でクリーンアップお宝拾い



集合写真

受講者からは「ウォーキングをしながら、その地域にまつわる知識を教えてください有意義な時間を過ごせました。」「充実の内容で大満足でした。講座の存在を知らなかったの、知人にもすすめたいと思いました。」「生き物がたくさんみられて楽しかった。これから個人でここに来られそうです!!」などの感想をいただきました。

これからは、自分でも沙弥島に遊びに来たいとの声があい、地域の魅力を感じてもらい、今後海へ足を運ぶきっかけとなる講座となりました。

【ウォーキングのルート】

万葉会館（スタート）⇒金刀比羅神社⇒芸術祭アート作品（階層・地層・層）⇒海苔工場⇒えなが石⇒天狗岩⇒蛭子神社⇒ナカダ浜（生き物&漂着物ビンゴ）⇒（柿本人麻呂碑）⇒長崎鼻⇒ウバメガシの森⇒城山⇒沙弥島海岸（クリーンアップ&ビーチコーミング）⇒万葉会館（ゴール）